

第13回女性同窓生の会報告 女性同窓生交流委員会委員長 青沼 泉（72期）

10月16日（日）トーキョーコンサーツ・ラボにおいて女性同窓生の会を開催しました。前回以来そして今回の企画立案より、コロナ禍により3年かかってしまいました。会員のみなさまには、本当にお待たせいたしました。講師の先生には、また会場にも延期するたびに次回の実施にご理解いただけていたことが大きな力となりました。54期から82期まで22名の参加があり、初出席は5名でした。

小泉悠斗さんによる「ヴァイオリンとは」の講演では、ヴァイオリンの歴史や作り、資産的価値などさまざまなお話とヴァイオリンの弾き比べが行われました。イタリア製の新しいものと、イタリア製とドイツ製の年代の古いもの3挺（丁）を、それぞれの特徴の説明とともに弾いていただいた後、楽器が見えない状態で弾き比べ（聴き比べ？）をしました。正解された方もされなかった方も、音色の違いは感じ取れて面白い経験ができました。もう少しヴァイオリンを聴きたいとのお願いにも快く応えていただき楽しく心地よい時間でした。また、54期前田喜美子さん（同窓会相談役）から、所有されるヴァイオリンで演奏されたCDをご提供いただき会場で流しました。

その後の茶話会では、近況を語り合いそれぞれのがんばりに暖かい拍手がおくられました。同期の輪、クラブの先輩・後輩の出会い、そしてこの会の最大の良さである年代を超えたつながり、全て含まれていて笑顔が会場に広がりました。「先輩から女性ならではの話を聞いて自分の指針となる」とは友人の言葉ですが、今回私も同じ思いを抱きました。特に54期の大先輩の「50～60歳はあちこち痛かったり辛いこともあるけれど70になると元気になる。自分はそれからヒマラヤの麓歩いてきた」との言葉に驚くとともに感銘を受けました。

それぞれの挑戦や学び、生き方に新たな気持ちで向かう元気と希望をもらって会は終了しました。別れの言葉は「また会いましょう」

今回ご参加いただけなかったみなさま、次回は是非お会いしましょう！



